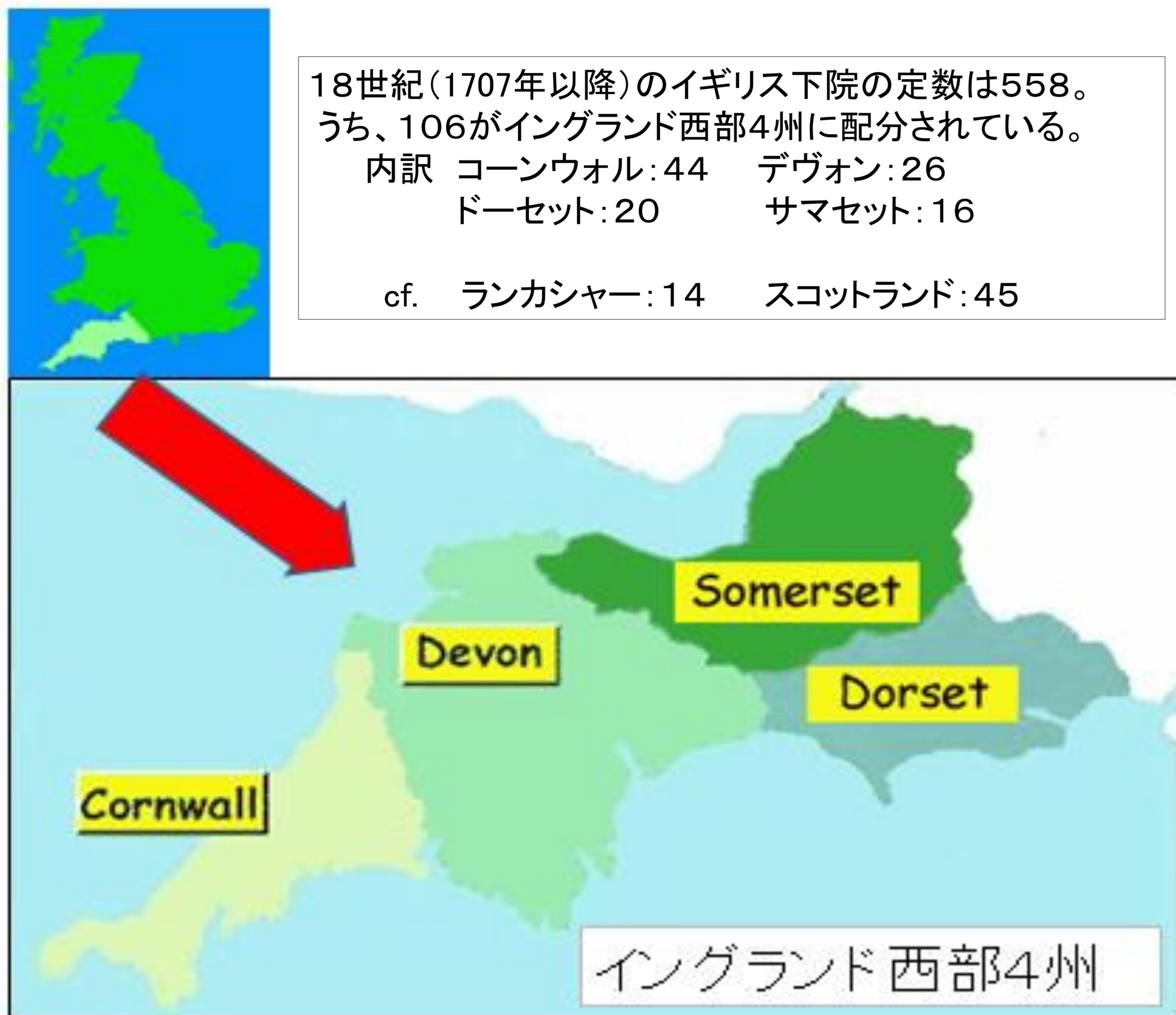


18世紀イングランド西部の下院議員

— 議員と選出区の関係めぐって

青木 康 (立教大学)

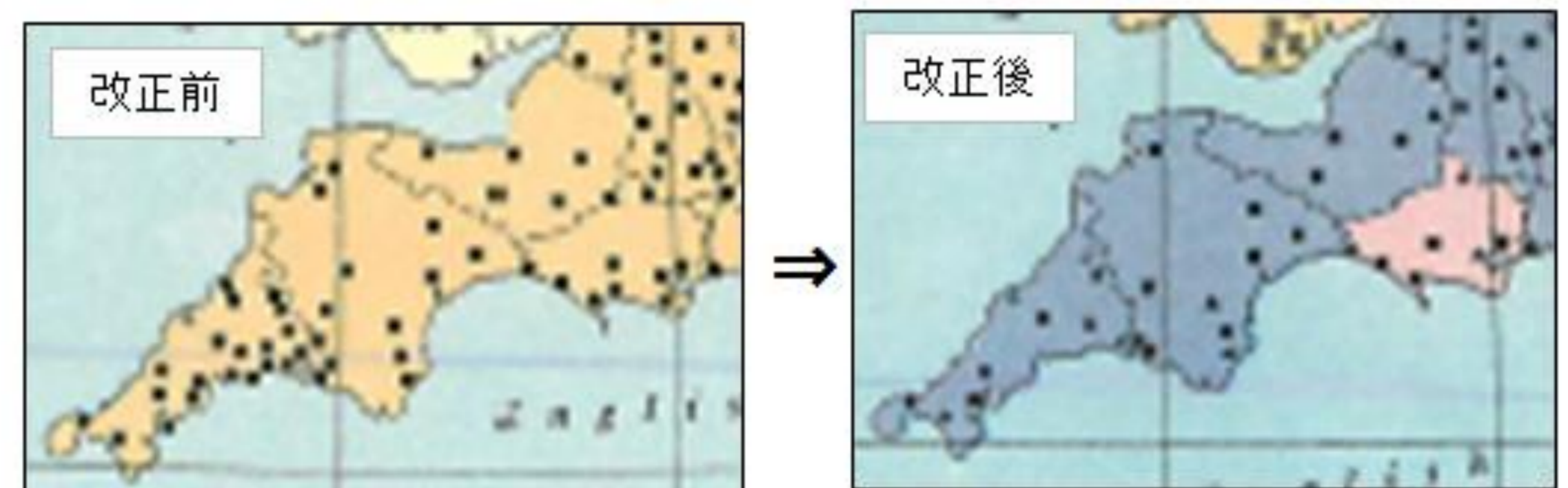
① 西部4州の突出 — 18世紀イギリス下院の議席配分



18世紀における西部4州は、106議席を与えられ、**人口、経済力などから見ると、過大代表の状況**

1832年の選挙法改正で、西部は大幅に議席を失う

1832年の選挙法改正前後の西部地方
(における都市選挙区(左:改正前、右:改正後)
The New Cambridge Modern History,
Volume XIV Atlas (1970), pp.100-101



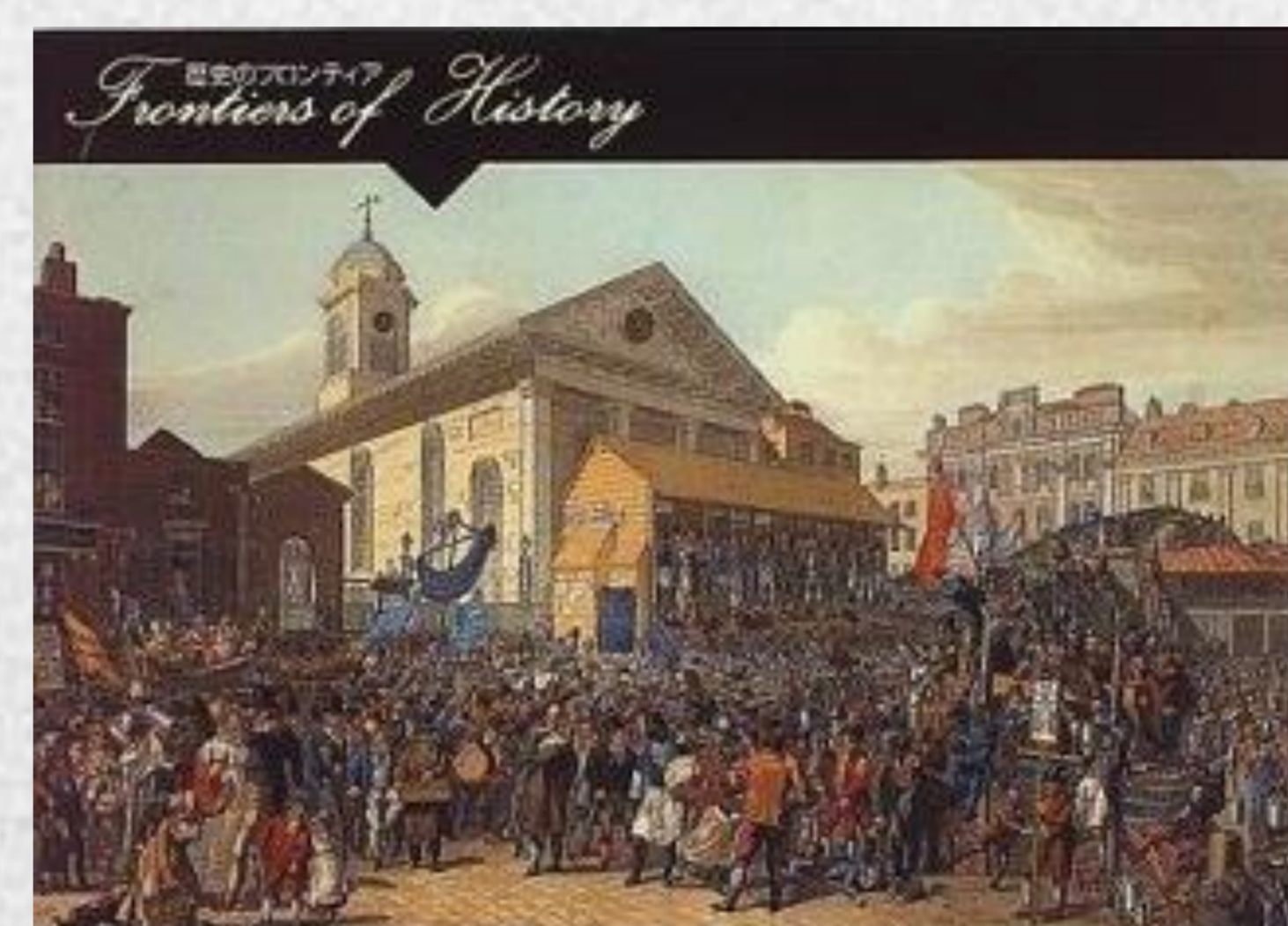
それでは、この過剰とも言える18世紀西部4州選出の下院議員は、自分を選出してくれた地域社会のために議員として働いたのか？ 議員と選出区の関係をもっと詳細に検討してみる必要がある。

② 下院議員の選出区との関係を検討する研究

青木康『議員が選挙区を選ぶ』(1997; 右図参照)は、18世紀イギリスの下院議員(4時期、延2217人)のデータベースに基づいて、複数回にわたって当選した議員の生涯選出区数の平均は1.81で、下院議員の生涯のうち選出区を移動する議員の方がむしろ多数派であったことを明らかにした。また、議員の地元率は69%で、意外に多くの議員が自分の地元ではない選出区から議員になっていたことを知ることができる。

それでも、**全国をならして考えると、選出区の地元人が議員として選出されているケースがほぼ7割であった。**

上記の著書ではイングランドの地方単位での検討は行っておらず、今回、西部4州について、同じ手法で検討してみることにする(19世紀初頭の2時期を検討対象に追加して、計6時期、延3529人の下院議員を含むデータベースを使用する)。



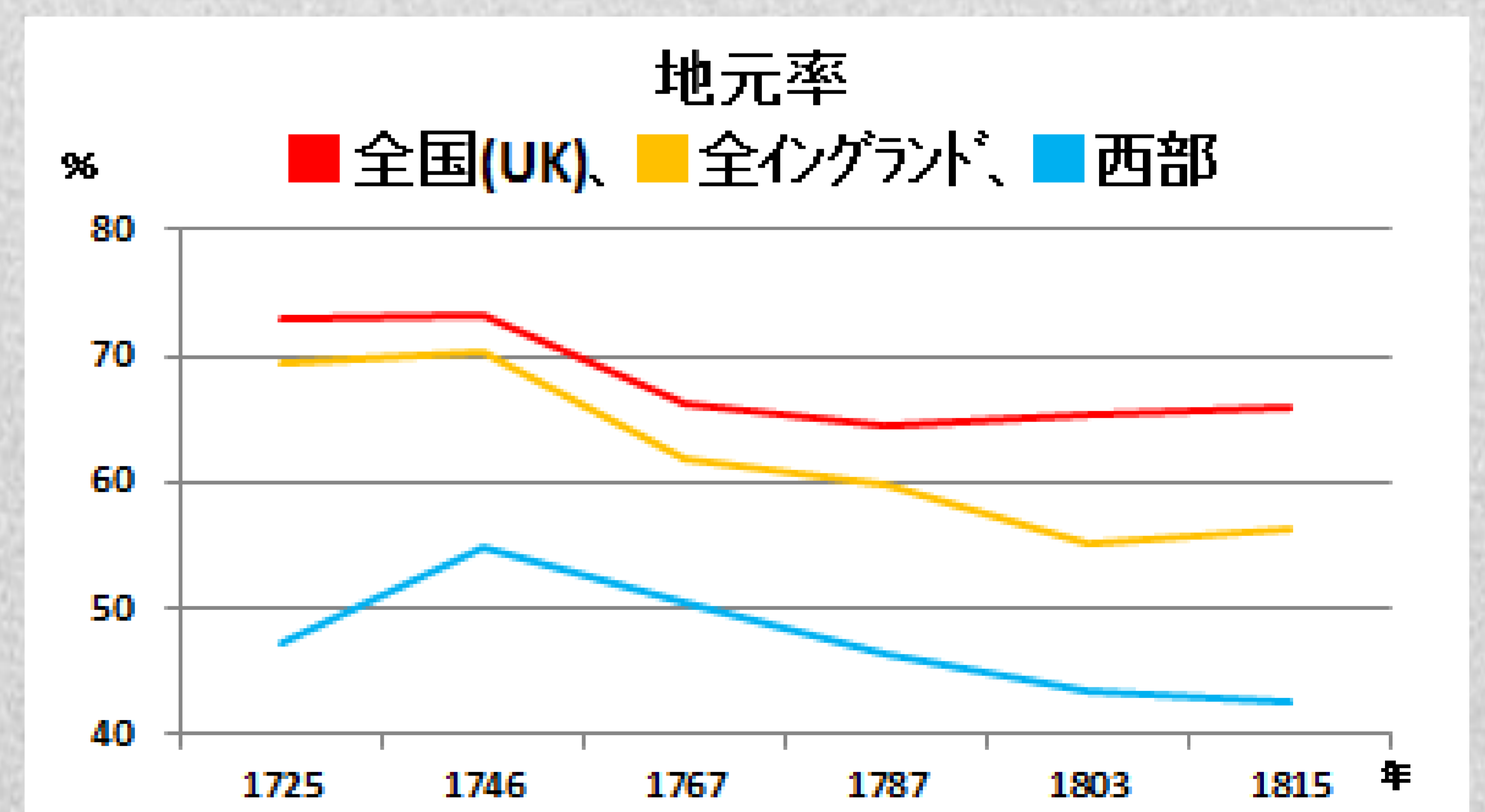
議員が選挙区を選ぶ
18世紀イギリスの議会政治
aki yasuhiko
青木 康

選挙区を移動しながら、下院選挙に出馬する議員たち。彼らはなぜ生涯に何度も選挙区を変えるのか？ 今日とは異なる、18世紀イギリスの議会政治の実像に迫る。
議員は地域の代表か、国民の代表か
山川出版社 定価2,600円(本体2,524円)

③ 西部選出議員の特徴

西部4州からの選出議員に限ってみると、地元人は半分以下にすぎず、その他の指標も、西部選出議員については、選出区との関係が緊密ではない議員が多いことを示している。

生涯選出区数	西部 1.96	全国 1.77
地元率 (%)	西部 47	全国 68
州内率 (%)	西部 52	全国 61
連続在職年数	西部 13	全国 15



結論

18世紀イギリスには、もともと地域社会の代表を務めるというよりも中央政界で活動することを望んでいた政治家が存在し、西部4州の選挙区は、彼らに議席を提供するという役割を担っていたと言える。